

キャラクター名
乙木 茨

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン		ワークス	UGNエージェントB	カヴァー	UGNエージェント
	ノイマン					
オプション			年齢	22歳	性別	男
覚醒	感染	衝動	妄想	初期侵食率	28 %	
出自	安定した家庭	経験	実験体	邂逅	友人	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	0	0	1			1	行動値	8
感覚	0	1	0			1	(非装備時)	8
精神	6	0	0			6	戦闘移動	13
社会	2	0	0			2	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	1		RC	1		交渉		
回避			知覚	1		意志			調達	2	
運転:			芸術: 裁縫	2		知識:			情報: UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
EEコンボ「物神」		0				あらゆる物とも会話が可能になる
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: UGN幹部	
応急手当キット	
コンパクト裁縫セット	
メモリー: ジョン	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
触媒-カタリスト	P	N		
研究者	P 懐旧	N 嫌悪		
支部長(PC③)	P	N		
ムーンエンブレイス	P 執着	N 憎悪		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 8 残り財産P: 4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
戦術	7	6	Set up	視界	シーン[選択]	自動	-	
効果: ラウンド中、対象の判定D+[Lv]								
常勝の天才	5	6	Set up	視界	シーン[選択]	自動	ピュア	
効果: ラウンド中、対象の攻撃力+[Lv*4]								
勝利の女神	2	4	Auto	視界	単体	自動	100	
効果: 対象の達成値+[Lv*3]								
ブリックリーク	1	4D10	Initiative	視界	単体	自動	120	
効果: 対象に行動させる[行動済み可]								
究極鑑定	1	-	Major	至近	効果	自動	-	
効果: 未知のアイテムを理解する								
ドクタードリトル	1	-	Major	至近	自身	自動	-	
効果: あらゆる言語を理解する								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

使用ルルプ: 基本①②、上級、EA
【とある研究所の実験室のひとつにて】
「このお人形とお話できるかい？」
そう言って研究員の一人が渡してきたのは片耳が途中から切れ、中の綿が飛び出している薄汚れた古いウサギのぬいぐるみだった。
「汚い…」
最初の口にした、口から出てしまった心からのそんな言葉、
「仕方ねえだろ？こちとら15年もこうせえガキどもに文字道理おもちゃにされてたんだからよ……たっく、そんな目で見んじゃねえよ青くせえ○○○
○○が！」
言葉を返したのは目の前にいる白衣の男ではなく、僕の持っているウサギの人形だ……どうせ保育園だか幼稚園だかで使われていたんだろ、ならもう少しきれいな言葉を使えよ……そう思ったため息が出てしまった。いけない、始める前からこんな調子ではまた配給を減らされてしまう。
僕は持っているウサギのぬいぐるみに声を掛けた。
「……君の、名前は？」

【オトギ イバラ】
22歳、N市支部所属のエージェント。自身の感情によって周囲のレネゲイドを活性化もしくは鎮静化させる能力と、ある程度の距離までどんなものとも感覚を共有する能力を持っている
一般的な家庭の一人っ子として育てられていたが、10歳の頃家族でキャンプに行った時に森で迷い行方不明となり一週間後キャンプ場近くの民家で発見された。
その行方不明になっていた間にオーヴァードに覚醒したようだが、その間の事は本人があまり覚えていないようで詳しい情報は手に入らなかった。

感覚を共有する能力を制御できなかった頃は、そこらの虫や動物、更には石ころの声まで聞こえていた。それを重度の統合失調症だと思った両親は様々な治療